



数値で見る滋賀県立大学 2022

— 県大のポジション —

この資料は、滋賀県立大学の教育研究活動等に関する数値のうち、他大学等と比較可能なものを中心に大きく7つの視点をピックアップし、本学の概況・ポジションができるだけ明らかになるように作成しました。

1. 大学の構成員 —教職員数・学生数—
2. 学生の受入
3. 教育
4. 研究 —科学研究費助成事業—
5. 地域貢献・地域連携
6. 県大ブランド力の向上
7. 財政の状況

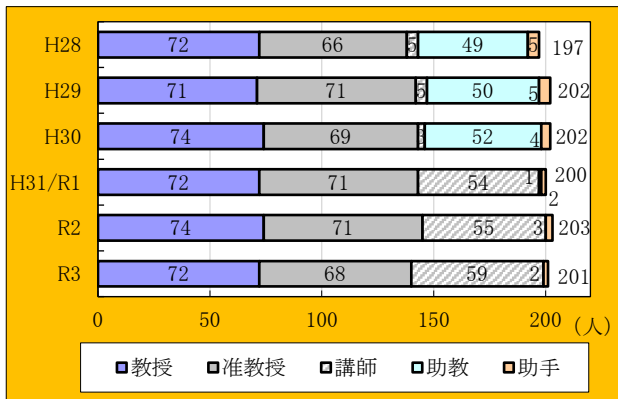


本学生活デザイン学科卒業生、島先 沢さんの卒業研究・制作
「滋賀イラスト素材」より

1. 大学の構成員 — 教職員数・学生数 —

- 教員数は201人、事務局職員数は61人、学生数は2,861人
- 教員の年齢構成は、45歳～49歳の層が最も多い

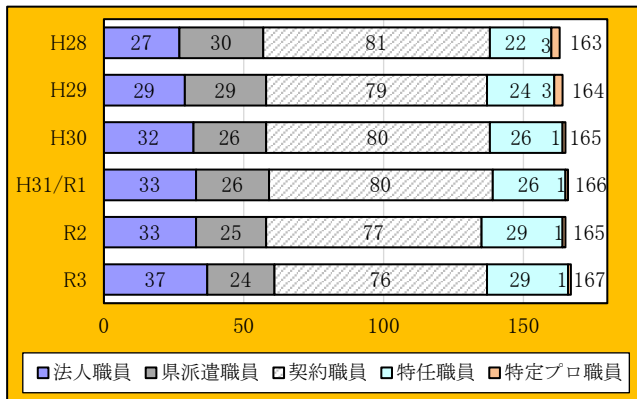
1-1 教員数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）

教員数は、概ね200人前後である。数の変動は、学校基本調査が毎年5月1日現在の調査であり、退職者の補充に伴う公募中等によるもの。

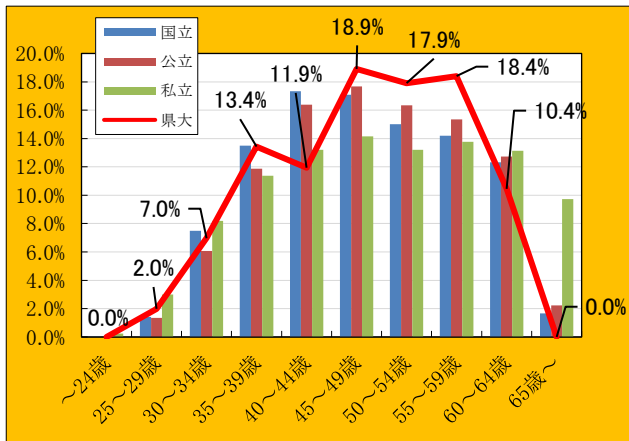
1-2 職員数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）ほか

事務局職員数は、契約職員等を除き61人。法人化以後、毎年度法人職員を採用し、平成30年度から法人職員の数が県派遣職員の数を上回った。このほか、平成20年度以降に特任職員（特任教授等）、特定プロジェクト職員の制度化が図られている。

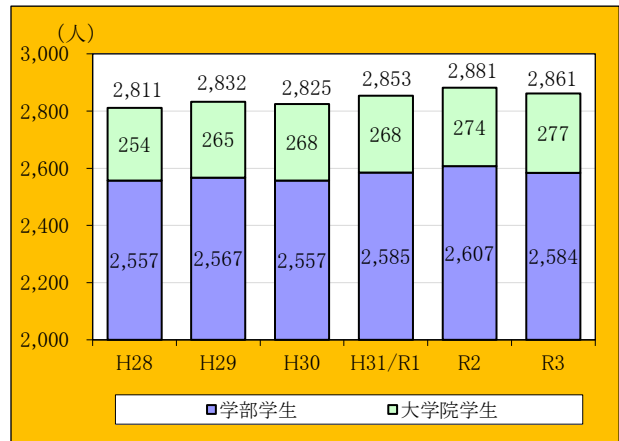
1-3 教員の年齢構成



※ 国公立大学の教員年齢：令和元年度学校教員統計調査より（3年毎）
 ※ 本学の教員年齢：令和3年4月現在 パーセントの数値は本学のもの

45歳～49歳の層が年齢区分別で最も多く、次いで55歳～59歳の層が多い。また、国公立大学の平均に比べ、45歳～59歳までの層の構成率が高く、40歳～44歳、60歳～64歳、65歳～の層の構成率が低くなっている。

1-4 学生数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）

令和3年度の学生数は前年度より20人減少した。

1-5 教員の構成（女性・外国人）

	国立	公立	私立	県大
女性比率	18.8%	29.5%	30.3%	30.8%
外国人比率	5.4%	4.3%	4.8%	5.0%

女性比率は前年度より0.7ポイント減少したが、国立・公立大の平均を上回っている。

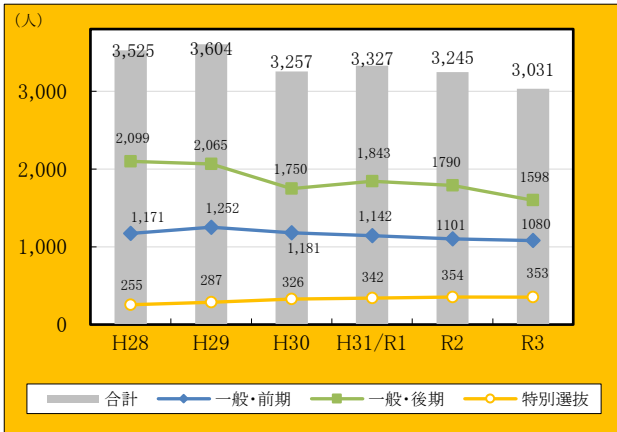
外国人比率は公立・私立大学の平均を上回り、前年度より1.1ポイント上昇した。

※ 出所：学校基本調査（令和3年5月1日現在） 国公立データ：学校基本調査より

2. 学生の受入 1/3

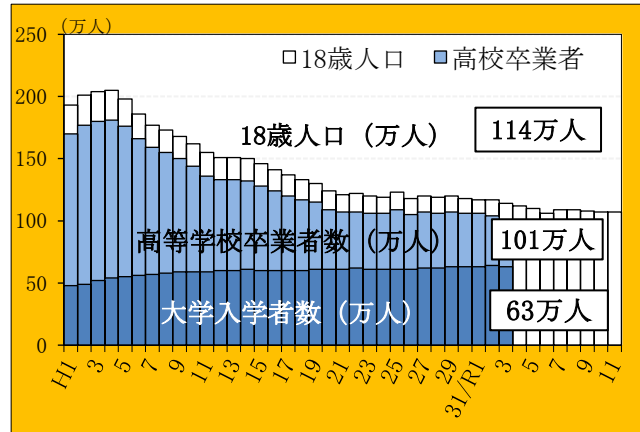
- 入学志願者総数は、3,031人
- 一般選抜（前期日程）の志願倍率は、3.7倍

2-1 志願者の推移



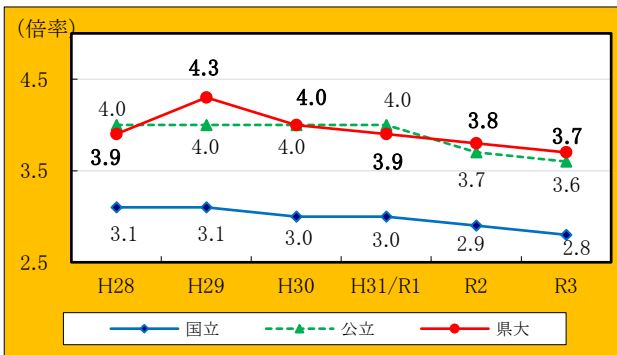
令和3年度の志願者は前年度と比べ、前期日程、後期日程、特別選抜すべてで減少し、総数で214人減少した。

<参考> 18歳人口の推移



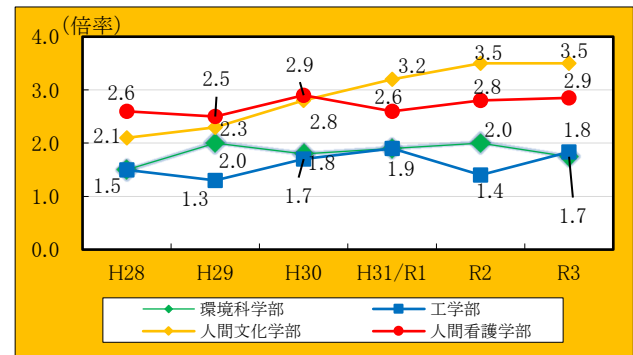
出所：文部科学省
令和3年18歳人口114万人、高校卒業生数101万人、大学入学者数63万人、大学進学率62.4%、大学・短大進学率66.9%

2-2 前期日程志願倍率の比較



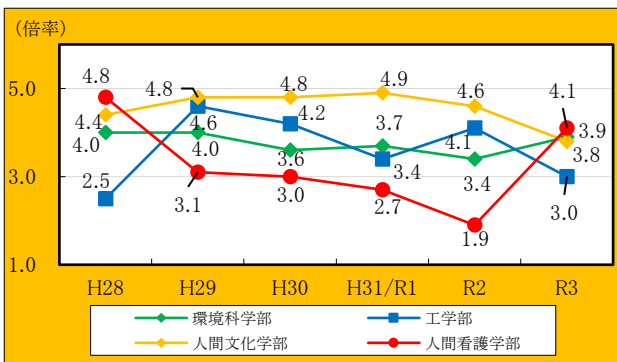
※ 出所：文部科学省報道発表資料
令和3年度は国公立大学の一般選抜（前期日程）の平均志願倍率は低下した。本学でも同様の傾向が見られた。

2-3 推薦入試志願倍率（学部別）



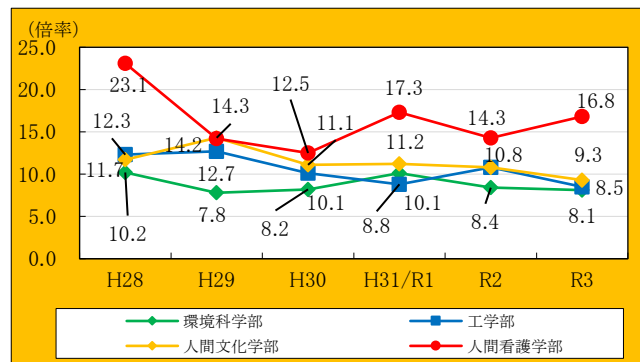
令和3年度は環境科学部の志願倍率が低下したが、人間文化学部は横ばい、工学部、人間看護学部の志願倍率が上昇した。

2-4 前期日程志願倍率（学部別）



令和3年度は工学部と人間文化学部の志願倍率が低下したが、環境科学部と人間看護学部の志願倍率が上昇した。

2-5 後期日程志願倍率（学部別）

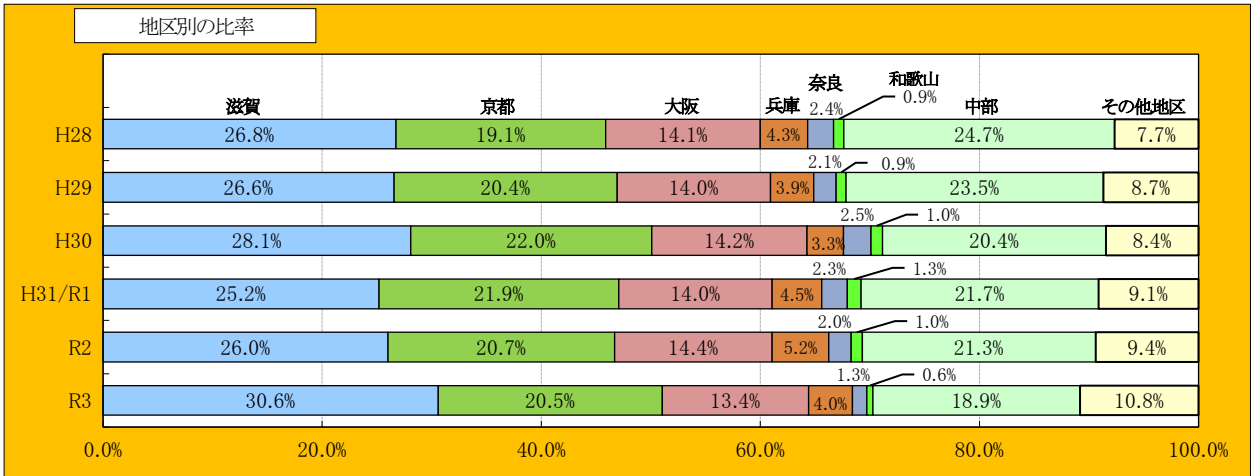


令和3年度は環境科学部と工学部、人間文化学部の志願倍率が低下したが、人間看護学部の志願倍率が上昇した。

2. 学生の受入 2/3

- 志願者のうち近畿地区は70.3%、中部地区は18.9%
- 新入学生のうち県内出身者は、37.4%（前年度6.4ポイント増）

2-6 地区別の入学志願者比率の推移 （比率＝当該地区の志願者／総志願者）

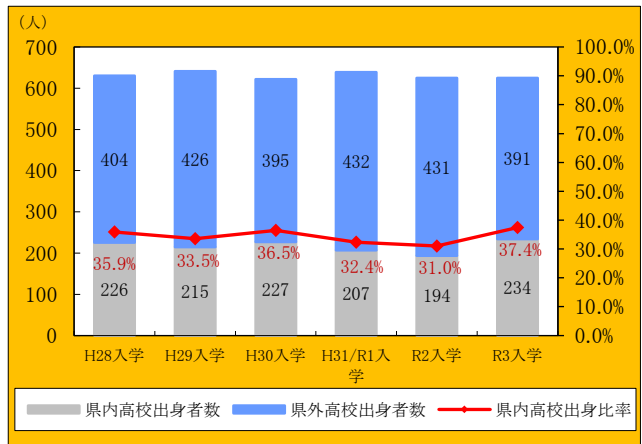


※地区は出身高校所在地による

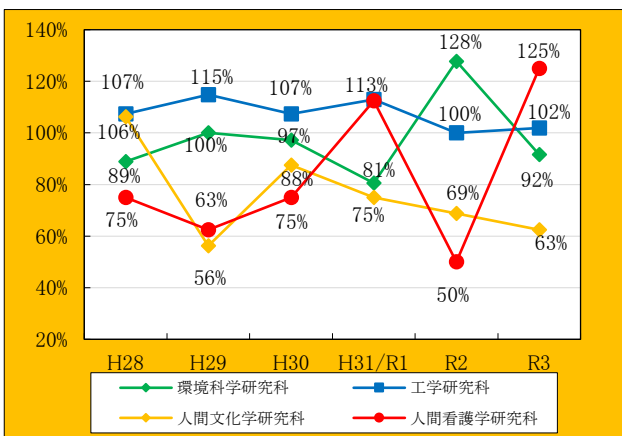
令和3年度は、入学志願者、新入生の県内高校出身者の比率がそれぞれ30.6%（4.6%増）、37.4%（6.4%増）と大きく増加した。

近畿地区の志願者比率は、県内に次いで多い京都府の志願者で約半数となり、近畿地区（2府4県）の志願者比率は、総志願者の約70%と前年度と同程度、中部地区（山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重）からの志願者比率は、約19%で前年度よりやや減少した。両地区で総志願者の約89%を占めている。その他地区のうち4.3%は北陸地区で昨年より1.0ポイント増。

2-7 新入生のうち県内高校出身者数と比率の推移

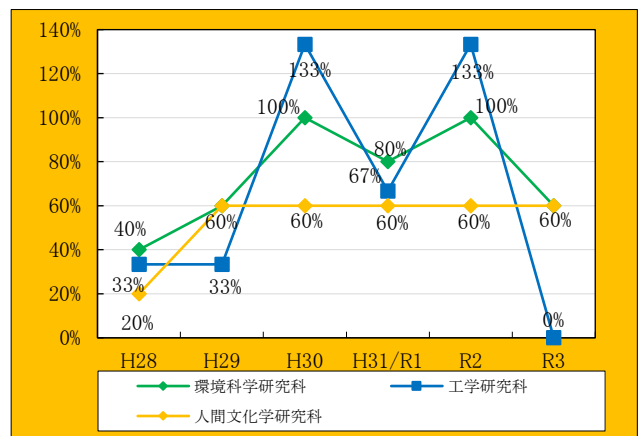


2-8 大学院入学定員充足率(修士・博士前期課程)



令和3年度は、人間看護学研究科の定員充足率が上昇した。

2-9 大学院入学定員充足率(博士後期課程)



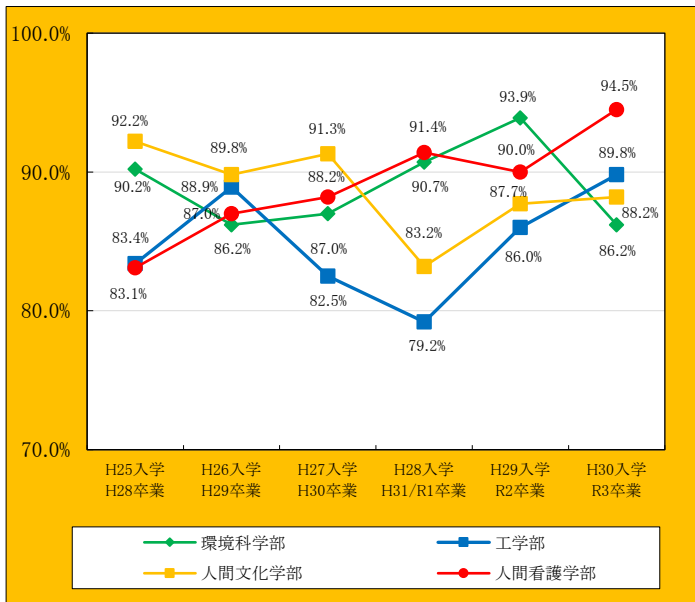
3研究科とも、母数が小さいため、1名の増減でも充足率が大きく変動し、コンスタントに定員を確保することは難しい。

2. 学生の受入 3/3

○ 休学者は年間90人、全体の3.5%で前年度より1.2ポイント増加

○ 退学者は年間31人、全体の1.2%で前年度より0.2ポイント増加

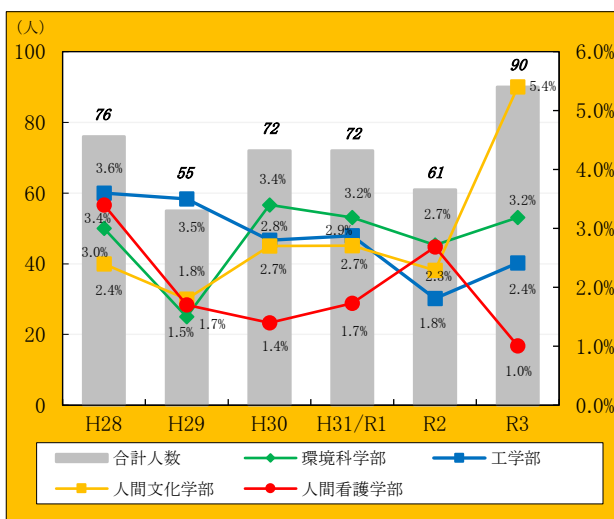
2-10 修業年限における卒業率（学部別）



修業年限（4年）での卒業率を学部別にみると、前年度より、工学部、人間文化学部、人間看護学部は上昇したが、環境科学部は低下した。

※（卒業率＝修業年限での卒業生数／入学者数）

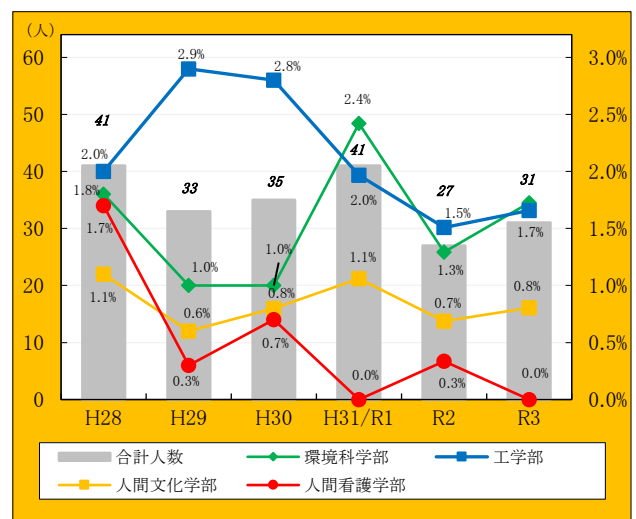
2-11 休学率（学部別）



※（休学率＝当該年度に承認された休学者数／年度当初の学生数）

令和3年度の休学者は年間90人で、全学生数の3.5%で前年度より1.2ポイント増加。休学率は環境科学部、工学部、人間文化学部で増加したが、人間看護学部は減少した。

2-12 退学率（学部別）



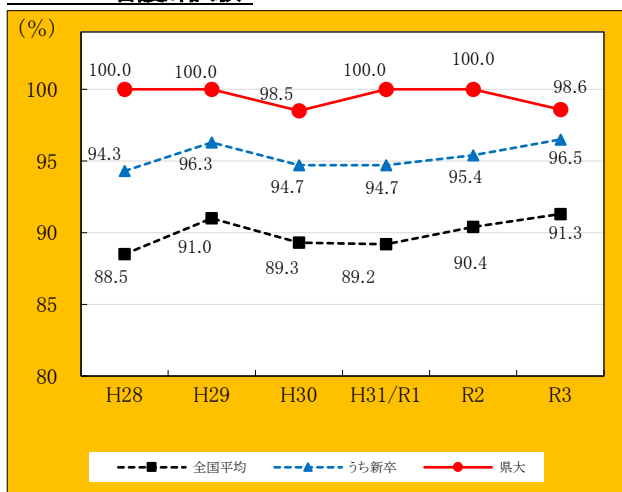
※（退学率＝当該年度に承認された退学者・除籍者数／年度当初の学生数）

令和3年度の退学者は年間31人で、全学生数の1.2%で前年度に比べ0.2ポイント増加。退学率は環境科学部、工学部、人間文化学部で増加したが、人間看護学部で減少した。

3. 教育 1/3 - 資格 -

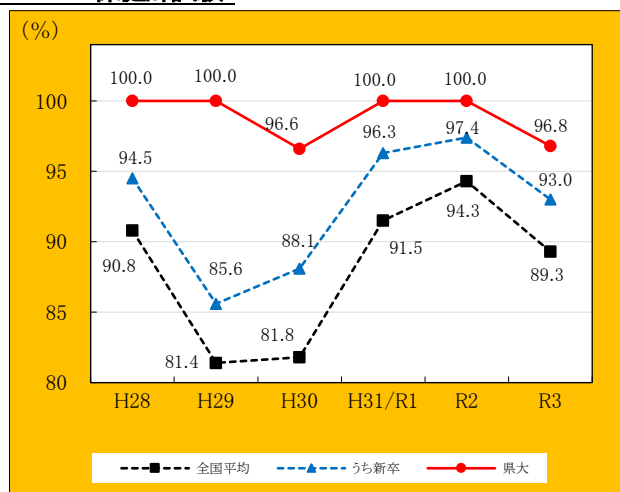
- 令和3年度の国家試験合格率は、看護師試験：98.6%、保健師試験：96.8%、助産師試験：100%、管理栄養士試験：100% となり、いずれも全国平均を上回っている。

3-1 看護師試験



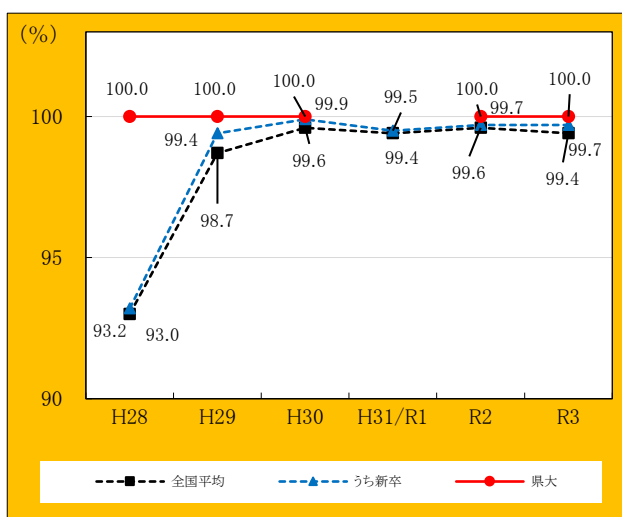
看護師試験 (73人/74人) (合格者数/本学受験者数)

3-2 保健師試験



保健師試験 (30人/31人) (合格者数/本学受験者数)

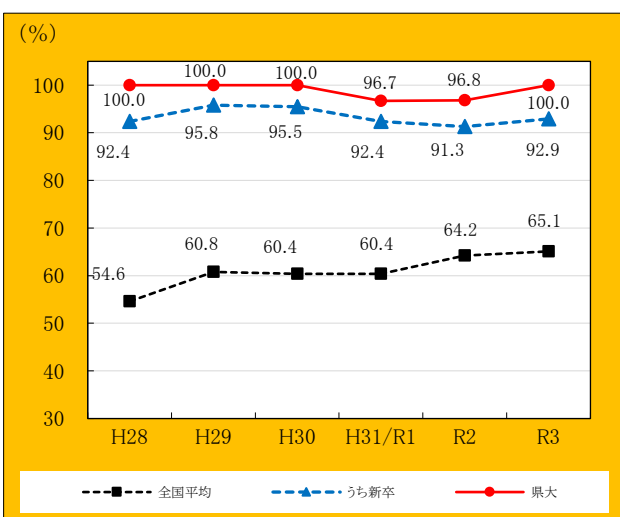
3-3 助産師試験



令和3年度は、助産師試験で全員合格した。
助産師試験 (1人/1人) (合格者数/本学受験者数)

※平成31(令和元)年度に助産師課程を大学院に開設し
学年進行中の為、平成31(令和元)年度の助産師試験受
験者は無し

3-4 管理栄養士試験



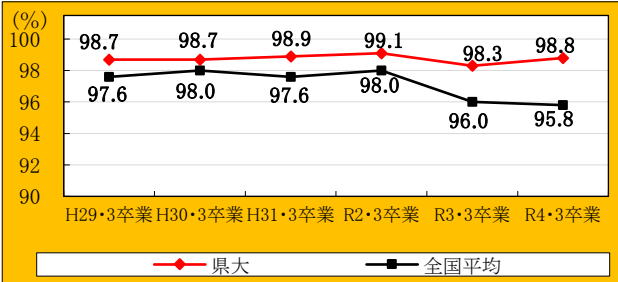
令和3年度は、管理栄養士試験で全員合格した。
管理栄養士試験 (26人/26人) (合格者数/本学受験者数)

※出所はいずれも厚生労働省報道発表資料など

3. 教育 2/3 - 就職 -

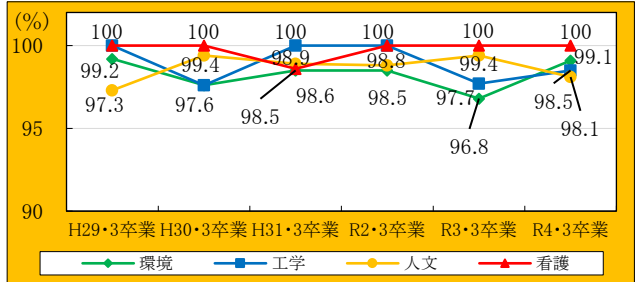
- 就職内定率（学部）は、全国平均（95.8%）を上回り、98.8%
- 県内就職内定率は28.5%で昨年度より4.3%上昇

3-5 就職内定率（全国比較）

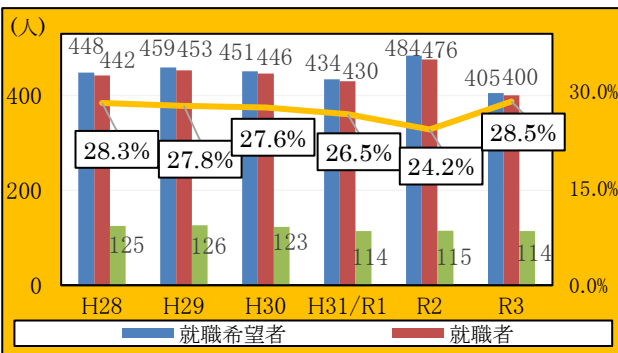


※ 出所：文部科学省報道発表資料

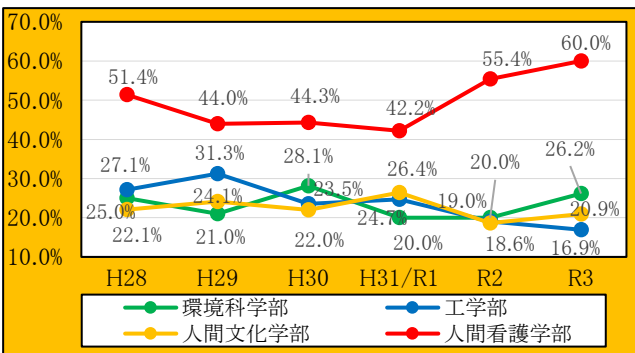
3-6 就職内定率（学部別）



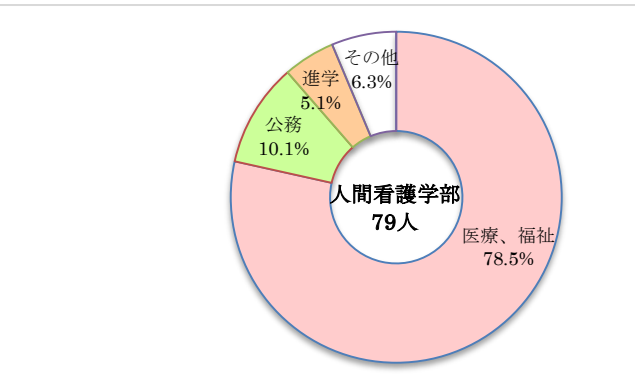
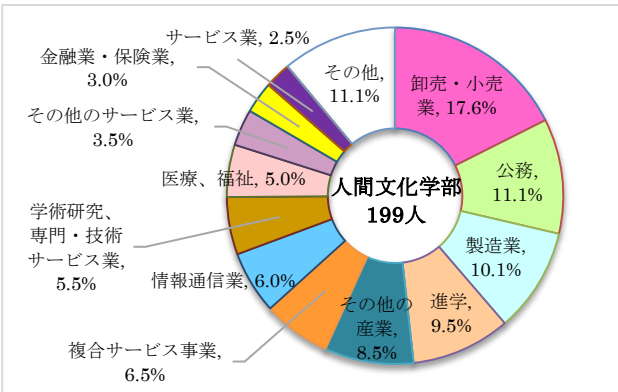
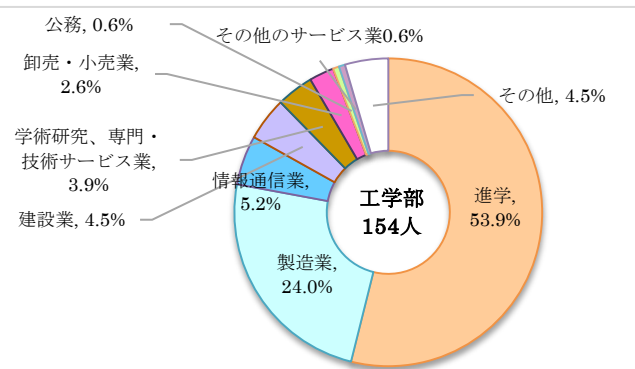
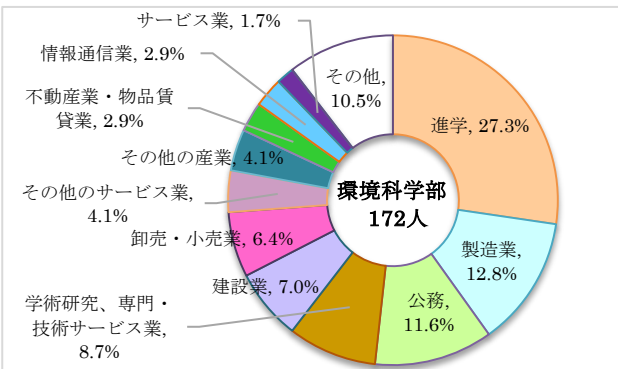
3-7 県内就職者数



3-8 県内就職内定率（学部別）



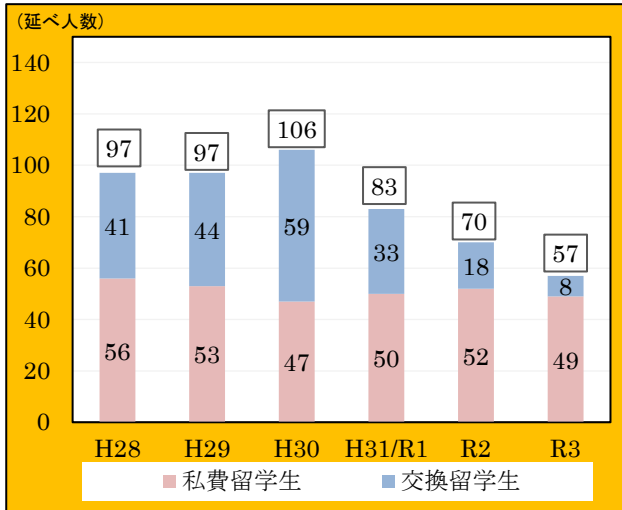
3-9 令和3年度卒業生進路状況（産業別就職状況）



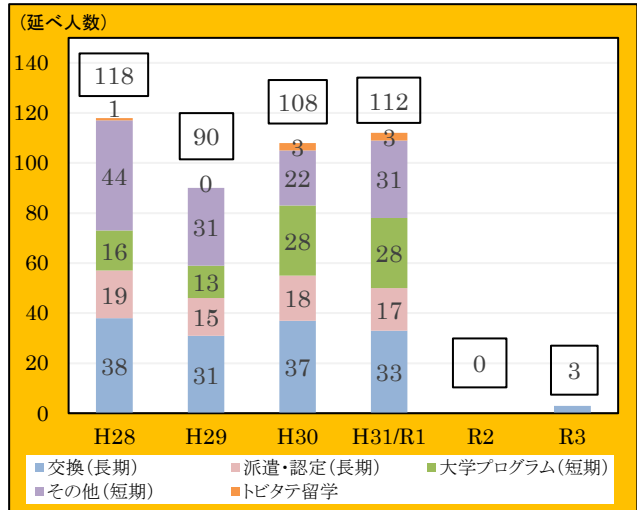
3. 教育 3/3 - 留学 -

○ 海外からの留学生は10カ国57人、令和3年度の滋賀県大から海外の留学者はコロナ禍の影響により渡航を伴わないオンライン留学で2カ国3人

3-10 海外から滋賀県大への留学生の受入数

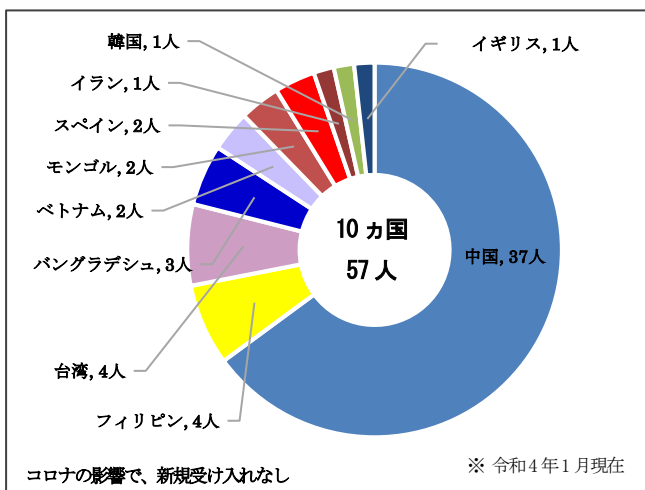


3-11 滋賀県大から海外への留学生の派遣実績数



国際交流行動計画に基づき学生の留学・海外派遣数、留学生の受入拡大を進め、海外25大学と交換留学協定を締結(令和3年4月現在)
令和3年度は新型コロナウイルスの影響のため、滋賀県大から海外への留学は渡航を伴わないオンライン留学

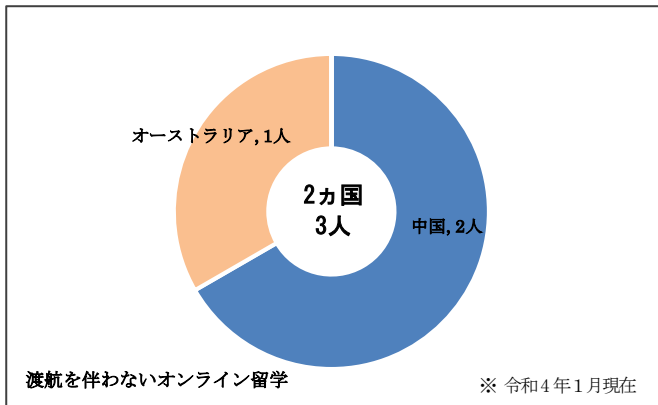
3-12 海外から滋賀県大へ(国別)



■ 交換留学協定大学一覧

国名	大学名
アメリカ	ミシガン州立大学連合
	カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校
	オーバーン大学
	アルマカレッジ
	コロンビアカレッジ
	マウントセントメリーズ大学
	ミッドミシガンカレッジ
	ヒューストン大学ヴィクトリア校
イギリス	ヨークセントジョン大学
イタリア	ペルージャ外国人大学
スペイン	セヴィーリヤ大学
ドイツ	アウクスブルク大学
フランス	リール政治学院
	オルレアン大学
韓国	光云大学校
	江原大学校
台湾	中興大学
中国	海南大学
	青海民族大学
	内モンゴル民族大学
	湖南師範大学
	湖南農業大学
	中南大学
モンゴル	モンゴル国立大学
オーストラリア	シドニー工科大学

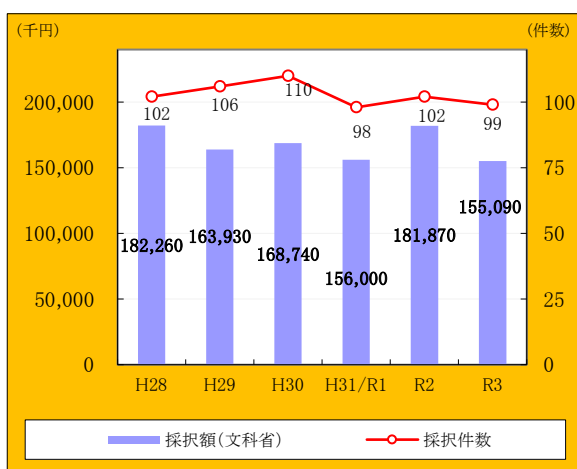
3-13 滋賀県大から海外へ(国別)



4. 研究 - 科学研究費助成事業 -

- 新規採択率は31.6%、採択件数は99件、採択金額は約1億5千500万円
- 研究者1人あたりの申請数は0.81件でやや減少、採択数は0.48件で昨年度と同様

4-1 採択件数と採択金額



※ 各年度の確定値

令和3年度の採択件数は前年度に比べ3件減少し、獲得金額についても26,780千円減少した。

4-2 令和3年度の採択状況

(新規+継続) 公立大学 採択件数上位20機関の状況

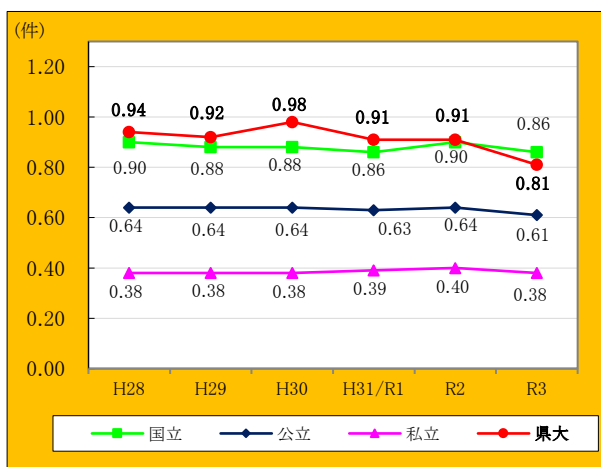
順位	機関名	新規+継続		新規応募件数(件)	新規採択件数(件)	新規採択率(%)
		採択件数(件)	配分額(千円)			
1	名古屋市立大学*	509	953,030	473	138	29.2%
2	大阪市立大学*	504	1,045,200	627	142	22.6%
3	東京都立大学	440	1,056,250	410	132	32.2%
4	横浜市立大学*	429	980,330	456	146	32.0%
5	大阪府立大学	400	1,273,870	480	124	25.8%
6	京都府立医科大学*	328	612,560	358	108	30.2%
7	兵庫県立大学	276	586,950	363	79	21.8%
8	福島県立医科大学*	274	438,360	377	73	19.4%
9	札幌医科大学*	265	424,060	312	91	29.2%
10	奈良県立医科大学*	260	453,570	322	91	28.3%
11	和歌山県立医科大学*	220	337,870	310	74	23.9%
12	静岡県立大学*	165	365,040	139	50	36.0%
13	県立広島大学	105	125,580	137	21	15.3%
14	富山県立大学	102	226,590	113	29	25.7%
15	滋賀県立大学	99	155,090	98	31	31.8%
16	秋田県立大学	94	192,140	138	29	21.0%
17	愛知県立大学	88	105,560	72	23	31.9%
18	京都府立大学	79	166,400	88	22	25.0%
19	埼玉県立大学	78	87,230	97	20	20.6%
20	高知工科大学	76	176,150	95	27	28.4%

※ 出所：文部科学省報道発表資料

※ 研究成果公開関連費を除く。

※ *は医学、歯学、薬学部のある大学

4-3 研究者1人あたりの申請数(新規+継続)

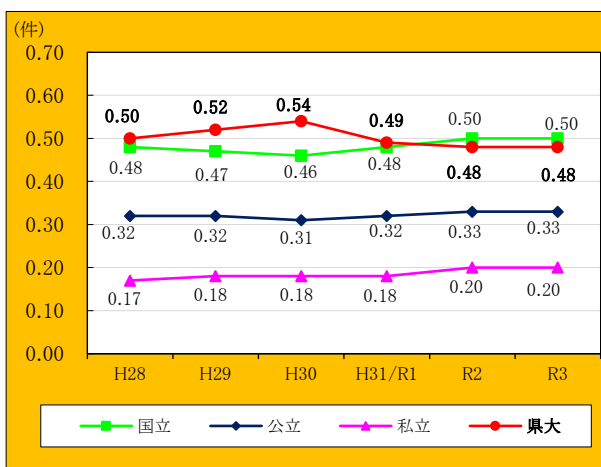


※ 出所：文部科学省報道発表資料

※ 厚労科研費を除く

研究者1人あたりの申請数は、0.81件で昨年度よりやや減少した。

4-4 研究者1人あたりの採択数(新規+継続)



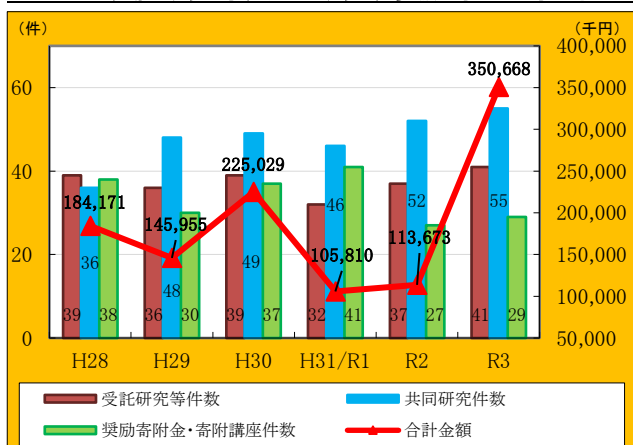
※ 出所：文部科学省報道発表資料

研究者1人あたりの採択数は、0.48件で昨年度と同様。

5. 地域貢献・地域連携 1/3

○ 受託・共同研究、奨励寄附金等の件数は125件、金額は約3億5千万円

5-1 受託研究等、共同研究、奨励寄附金等の合計（件数・金額）



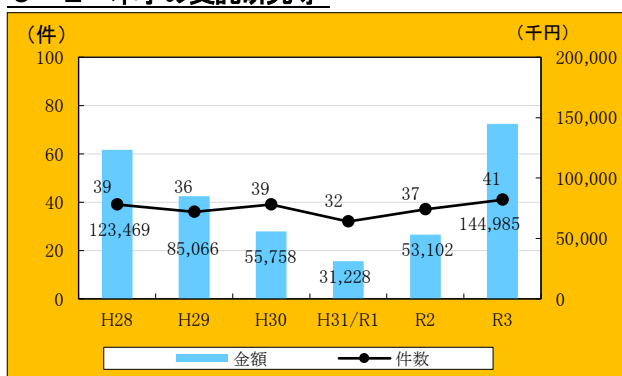
令和3年度は、受託研究等、共同研究、奨励寄附金すべてで件数、金額ともに前年度より増加している。

金額の大幅な増加の理由としては、受託研究での国家プロジェクト大型外部資金の継続および獲得、共同研究での金額の大きい研究契約によるもの。

また、平成27年度・平成30年度・令和3年度と、日本電気硝子株式会社様との連携事業や寄附講座の協定の更新（3年ごとに新たに契約を締結）により、1億円を寄附。

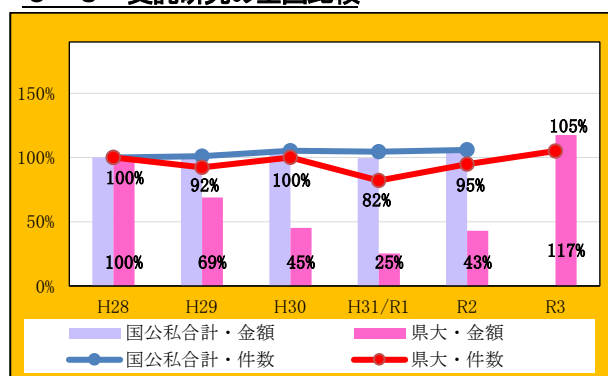
外部資金の獲得状況については、P.12に記載。

5-2 本学の受託研究等



令和3年度の受託研究等については、前年度と比べ件数、金額ともに増加した。

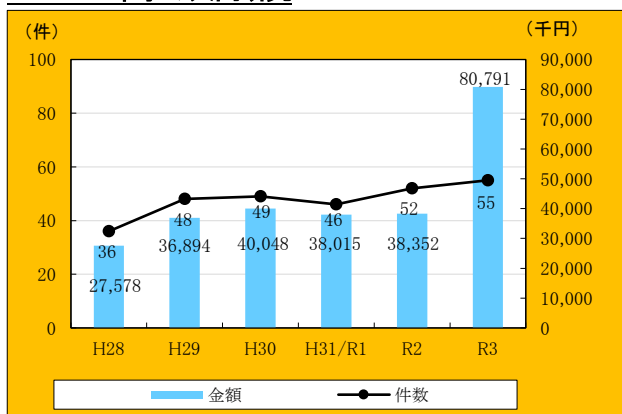
5-3 受託研究の全国比較



※平成28年の数値を100%とし、各年度を比較

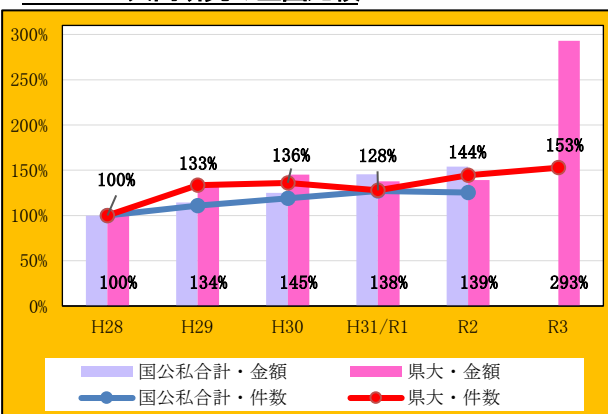
令和3年度の国公立大学のデータは、未公表

5-4 本学の共同研究



令和3年度の共同研究については、前年度に比べ件数、金額ともに増加した。

5-5 共同研究の全国比較



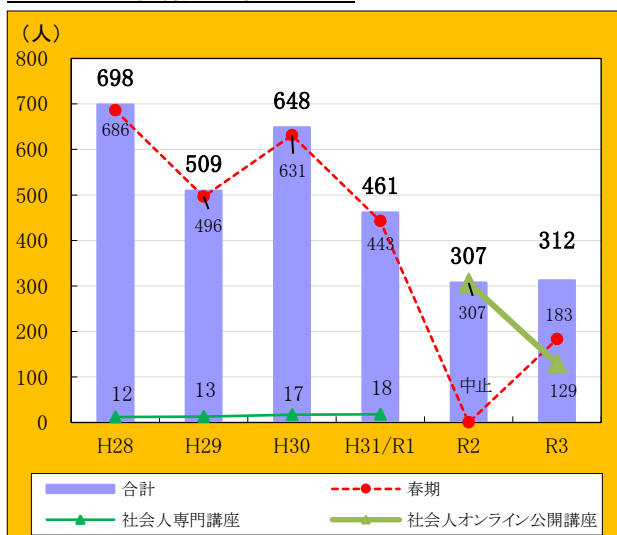
※平成28年の数値を100%とし、各年度を比較

令和3年度の国公立大学のデータは、未公表

5. 地域貢献・地域連携 2/3

- 公開講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催
- オンライン公開講座の申込者数は312名

5-6 公開講座の参加状況



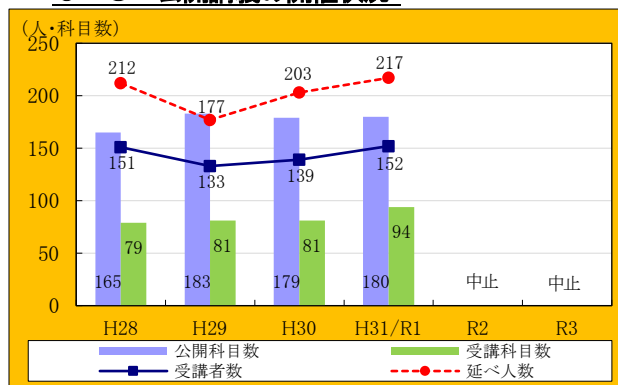
公開講座は、開学翌年度の平成8年度から開催しており、平成19年度からは有料化（受講者から受講料を徴収）していたが、平成26年度に再び無料化した。受講者数は講座テーマ等により変動している。

社会人専門講座は令和2年度に社会人オンライン公開講座と名称を改め、オンライン開催となった。令和2年度には新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっていた春期公開講座は、令和3年度はオンラインでの開催となった。

5-7 公開講座の参加者の満足度

H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
85.3%	87.9%	91.0%	89.7%	89.3%	93.9%

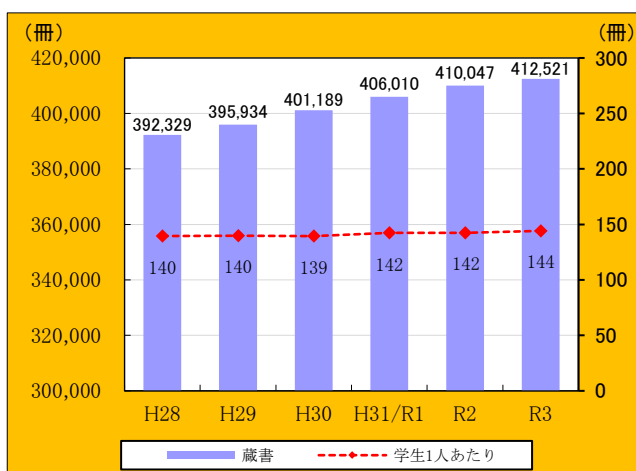
5-8 公開講義の開催状況



公開講義は、地域の人々に対して、学習の機会を提供することを目的に本学の講義を公開している。

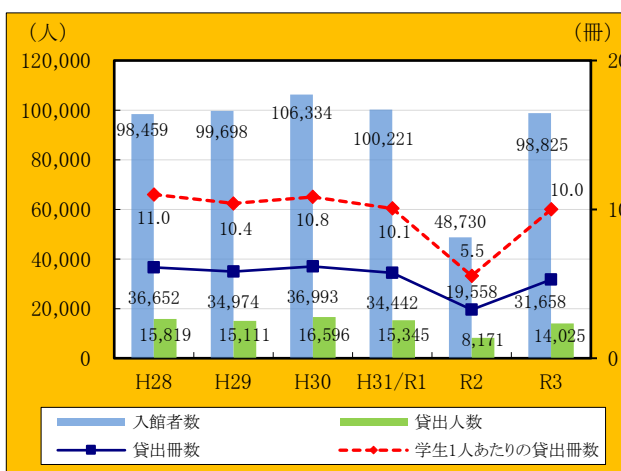
令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

5-9 図書蔵書数



図書蔵書数は年々増加している。また、平成29年度より電子書籍の購入を開始した。一方雑誌は、外国雑誌の価格高騰に対応しきれず、継続購読を維持することが厳しい状況である。

5-10 図書館入館者数および貸出状況

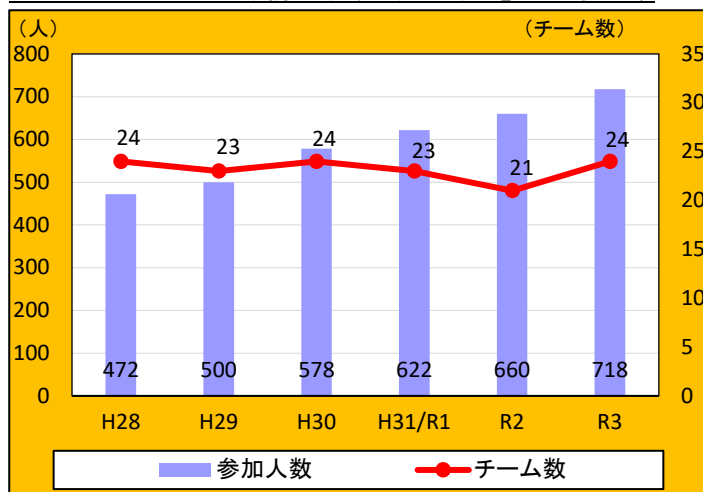


図書館入館者数は、令和2年度は7月末まで新型コロナウイルスの影響により入館制限をしていたため減少したが、令和3年度はコロナ以前のほぼ例年並みに戻った。

5. 地域貢献・地域連携 3/3

- 近江楽座では過去18年間で延べ404のプロジェクトが活動を展開
- 令和3年度は感染防止対策を講じ、24チーム、718人の学生が参加

5-11 学生の地域課外活動「近江楽座」への参加数

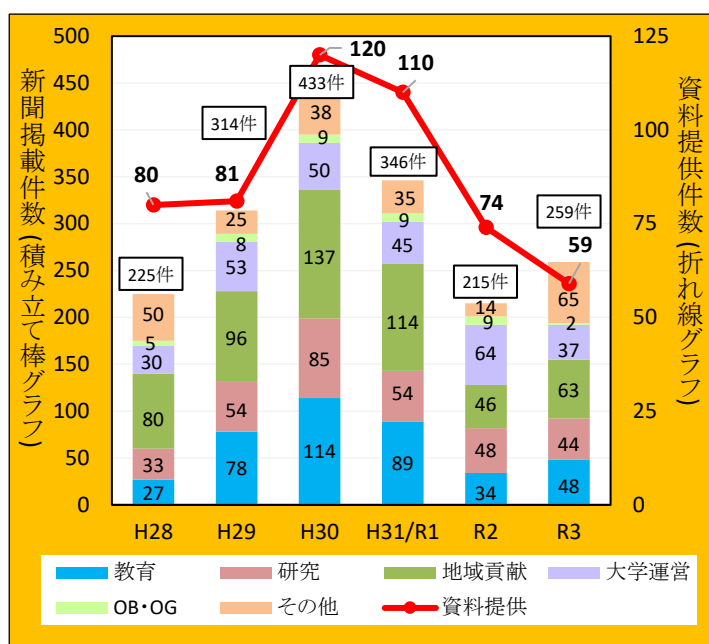


「近江楽座」は、地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定して支援する教育プログラムであり、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し24チーム、718人の学生が参加している。
※参加人数は実績報告時点

6. 県大ブランド力の向上

- 令和3年度においては新型コロナウイルスの影響で、資料提供数は減少したが、新聞掲載数は前年度と比べ増加した

6-1 新聞掲載と資料提供件数

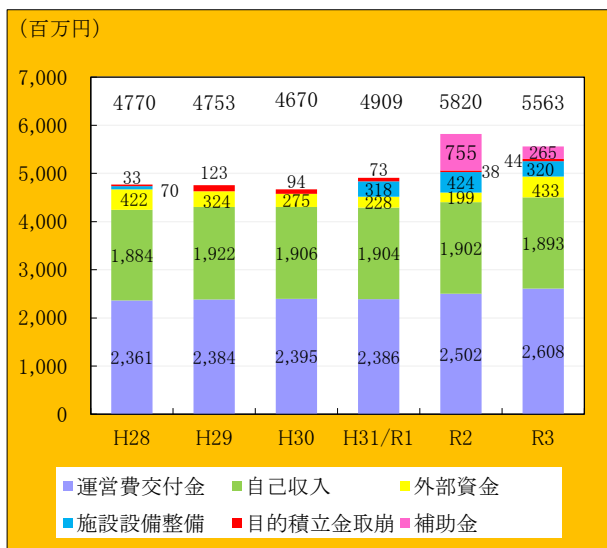


平成28年度に広報戦略を策定し、平成29年度よりパブリシティ活動の強化に取り組み、平成30年度までは新聞掲載件数に増加傾向が見られた。令和2年度以降は新型コロナウイルスのまん延を防ぐためイベント等が中止され、資料提供数や新聞掲載件数が減少した。令和3年度は資料提供数が減少したが、県の行う広域接種への協力など新聞掲載件数が増加した。
※資料提供1件につき複数紙に掲載される場合がある。

7. 財政の状況

- 年間事業費はおよそ56億円。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対策補助金などの影響により増加傾向。

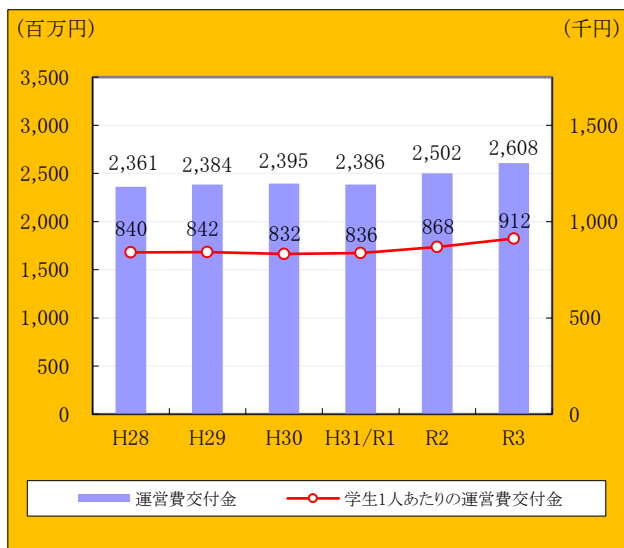
7-1 収入額構成から見る年間事業費の状況



※ 各年度決算報告書

本学の年間事業費はおよそ56億円程度で、そのうち県からの補助金額は、新型コロナウイルス感染症対策環境整備・授業料等減免等で2億6,500万円。

7-2 運営費交付金収入の状況

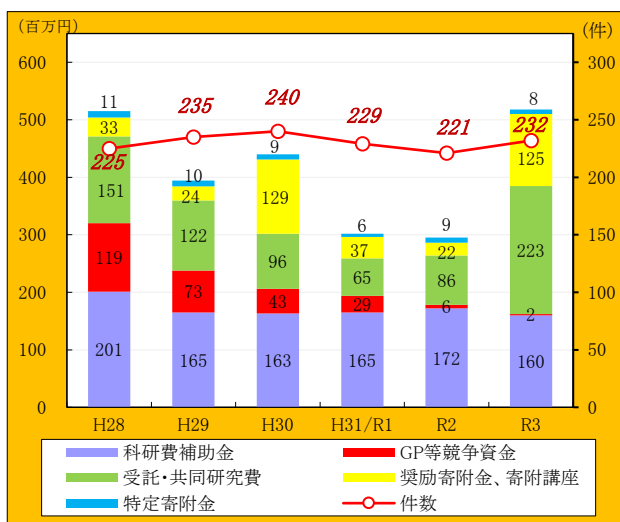


※ 各年度決算報告書

※ 学生数は、学校基本調査（毎年5月1日現在）による。

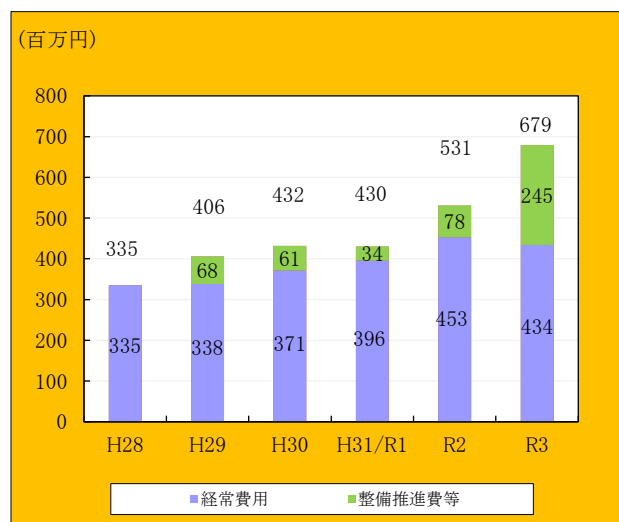
運営費交付金額は昨年より増加し、学生1人あたりの運営費交付金も増加した。

7-3 外部資金の獲得状況



前年度と比較して、獲得件数が増加し、金額は受託・共同研究費、奨励寄附金・寄附講座の増加により大幅に増加した。

7-4 教育経費の状況



※ 各年度決算

経常費用は、昨年度より減少した。また整備推進費等は、学務事務管理システムの更新や、管理栄養士養成施設改修工事等により増加した。